初級　硬筆検定試験問題（50分）（第96回　平成30・7）

問一　次の文字を、形よく書きなさい。（漢字は一行目に楷書で、二行目は行書で）

新緑寒暖自然体

おくのほそみち

問二　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

未来を恐れ、失敗を恐れる人は、その活動を制限され、手も足も出ないものだ。失敗というものは別に恐るべきものではない。それどころか、以前やっていたときよりもはるか豊富な知識で、再び事を始める好機会なのだ。

（フォードの言葉より）

問三　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

世の中にエライ人が無闇に多いと思うから，恥ずかしくなったり，極まりが悪くなるので，自分の心が高雅であると，下等な事をする者などは自然と眼下に見えるから，ちょっとも臆する必要が起こらないものさ。

（夏目漱石「小宮豊隆への手紙」より）

問四　次の孔子廟堂碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨※書しなさい。

※臨書…古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと

（夫子廟五緯）

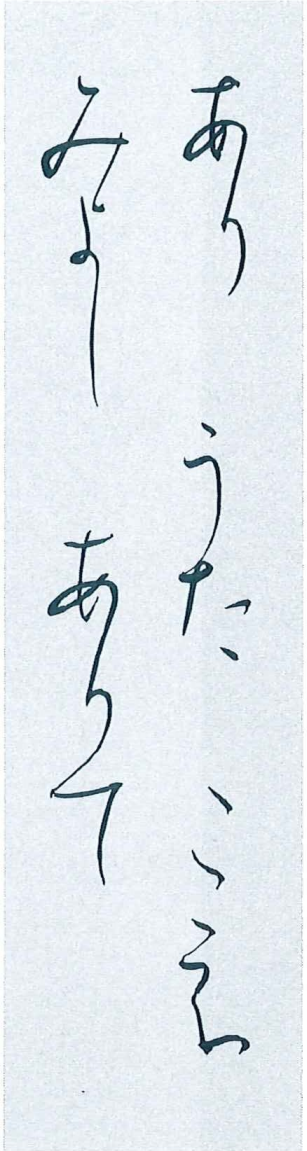
問五　次の部首にはそれを使った漢字を書き、漢字には部首名を書きなさい。

口→□　　里→□　　刂→□　　舟→□

花→□　　陽→□　　迎→□　　店→□

中級　硬筆検定試験問題（50分）（第96回　平成30・7）

問一　次は高野切第三種にみられる連綿です。正しく軽快に連綿しなさい。



問二　次の文章を、漢字は行書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

失敗は成功の母である。落胆と失敗は、人を確実に成功に向かわせる二つの試金石である。この二つを自発的に研究し、何か今後に役立てられることを掴み取ることができれば、これほどプラスになるものはない。

（デール・カーネギーの文章より）

問三　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

むしろ危険は、当然なすべき懐疑をなさないで漠然たる不安の中に生きることである。我々は無用な不安の中に生くべきではない。しっかりした中核的思想を抱いて、価値ある懐疑をしなければいけない。それによってのみ問題を解決し、進歩してゆくことができる。

（スピノザの文章より）

問四　次の温泉銘を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨※書しなさい。

※臨書…古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと

（巌々秀岳横基）

問五　次の平仮名、片仮名の字源（平仮名、片仮名のできるもとの漢字）を、楷書で書きなさい。

たのしいな

ツキヒカリ

初段　硬筆検定試験問題（60分）（第96回　平成30・7）

※各問の出典の記入は自由とする。

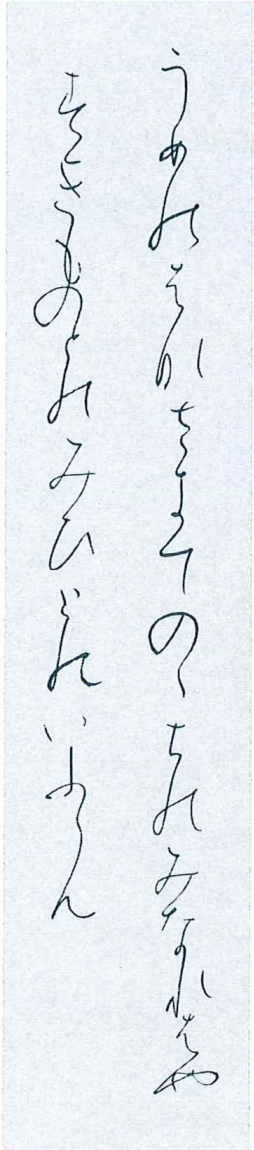
問一　次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

山　空　松　子　落

問二　次の曹全碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

（闕是以鄉人）

問三　次の高野切第三種を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



（うめのはなさきてのゝちのみなればやすきものとのみひとのいふらん）

能者那支　能　者春　能　能

問四　次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

自分は一番大きいのを選んで、勢いよく彫り始めてみたが、不幸にして、仁王は見当たらなかった。その次のにも運悪く彫り当てることができなかった。三番目のにも仁王はいなかった。自分は積んである薪を片っ端から彫ってみたが、どれもこれも仁王を隠しているのではなかった。

（夏目漱石「夢十夜」より）

問五　次の□内の掲示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小を考えて、フェルトペンか、筆ペンで書きなさい。（縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい）

○期日　平成三十年七月十五日(日)
○会場　宮崎県立美術館
○第十五回　宮崎県高校書道展
○主催　宮崎県高校文化連盟
○後援　宮崎県書道協会

二・三段　硬筆検定試験問題（60分）（第96回　平成30・7）

※各問の出典の記入は自由とする。

問一　次の文字を、楷書・行書・草書・隷書の四体で書きなさい。

清　風　入　梧　竹

問二　次の十七帖を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

（逸民之懐久矣）

問三　次の作品について各々の時代名と筆者名を漢字で書きなさい。

(1) 蘭亭序
(2) 書　譜
(3) 風信帖

問四　次の文章を、漢字は行書、または、草書で調和よく書きなさい。

にくきもの。急ぐことある折に来て長言するまらうと。あなづりやすき人ならば、「後に。」とてもやりつべけれど、心恥づかしき人、いとにくくむつかし。硯に髪の入りてすられたる。また、墨の中に、石のきしきしときしみ鳴りたる。

（清少納言「枕草子」より）

問五　次の俳句を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

夏河を越すうれしさよ手に草履　（与謝蕪村）

（連綿や変体仮名をいくつか使いましょう）

問六　次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

赤とんぼ

夕焼け小焼けの　赤とんぼ
負われて　見たのは
いつの日か

山の畑の　桑の実を
小かごに摘んだは
まぼろしか

十五でねえやは　嫁に行き
お里の　便りも
絶え果てた

夕焼け小焼けの　赤とんぼ
とまっているよ
竿の先